



崇徳学園同窓会  
関東支部  
会報  
— 第 30 号 —

発行：崇徳学園同窓会関東支部 編集：支部事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷4-37-20

ホテル機山館

<http://sotokukanto.gl.xrea.com/> mail:sotoku\_kanto@yahoo.co.jp

TEL (03) 3812-1211 (代) FAX (03) 3816-1218

## 新しい時代を創造しよう

### — 幅広い人材教育の母校をみんなで支援しましょう!! —

崇徳学園同窓会関東支部会長 室崎 宏治 (昭和46年卒)

こんにちは。1昨年第31回総会より黒川 弘会長(昭和33年卒業)より引継ぎしました室崎宏治です。よろしくお願いいたします。わたしは中学より崇徳学園にお世話になっておりました。京都大学に進学し、京葉瓦斯株式会社に勤めておりました。この会社は、柔道部が有名です。崇徳の卒業生も沢山います。

さて、数年のあいだに、世界は大きく変貌をとげました。東日本大震災や熊本大地震の復興がままならないうちに、先日の熱海の土石流や1昨年は北海道胆振東部地震が起き、数多くの台風が日本列島を縦断して、多くの人々が被災しました。世界では民族や宗教による対立が激化し、多くの難民が生み出されて、各国のこれまでの協力体制や連携にひずみが生じています。イギリスの離脱交渉で揺れるEU、一国主義から脱却しようとしているアメリカ、流動化する東アジア情勢など、こういった世界の急速な動きのなかで、皆さんは何を考え、どういった決意を新たにしてきたのでしょうか。

いま世界を襲っているcovid-19のような、人類が初めて出会う病原体による感染症は、新興感染症とよばれます。比較的最近に限っても、後天性免疫不全症候群(エイズ)、エボラ出血熱、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)など、人類はこれまで何回も新興感染症に見舞われてきました。一体これらの病原体はどこからやってきたのでしょうか。結論から言うと、野生動物です。様々な野生動物の中で共存していた病原体が、何らかの契機で人に感染し、やがて人から人へと感染するように適応変化してきたものです。実際、今では人類に特徴的と考えられている多くの感染症、たとえば、麻疹(はしか)、結核、天然痘、インフルエンザ、百日咳なども、過去数千年から1万年ほど前の間に、牛、豚、鳥などの動物から人に感染し、やがて人から人へのみ感染するようになったものと考えられています。これは旧大陸で人類が、人口密度の高い農耕定住生活を始め、牛や豚などの野生動物を家畜化していった時期に相当しています。カリフォルニア大学ロサンゼルス校のジャレッド・ダイヤモンド教授はその有名な『銃・病原菌・鉄』(Guns, Germs, and Steel)という本の中で、これら人類の感染症は、家畜化された動物からの「恐ろしい贈り物である」と言っています。その後数千年の間に、旧大陸の人類はこれらの病原体に対して一定の抵抗力を獲得しますが、現在でもまだ天然痘を除くほとんどの病原体は、完全には駆逐されていません。

旧大陸の人類は、1万年以上前から新大陸へも移動し、そこで定着していきました。しかし大航海時代に、軍馬と鉄製の銃を持った少数のヨーロッパ人の侵略により、新大陸のアステカ帝国やインカ帝国が16世紀に滅亡に至ったことはよく知られています。ジャレッド・ダイヤモンドによれば、実際は帝国滅亡よりかなり以前に、新大陸原住民の人口はすでに大きく減少しており、その主たる理由は、旧大陸人が持ち込んだ感染症でした。例えば、今のメキシコ地方に2千万人もいた新大陸人の人口は、旧大陸人が持ち込んだ天然痘の大流行によって160万人にまで激減したと推定されています。当時の新大陸原住民はまだ密集した農耕定住生活をせず家畜も持っていなかったため、初めて遭遇した動物由来の感染症には全く抵抗性がなかったためと思われます。病原体が、地球レベルで人類史を大きく変化させたと言っても過言ではないでしょう。今回の新型コロナウイルスも、コウモリなどの野生動物由来と推定されていますが、まだ確定はされていません。しかしながら、かつての天然痘などとの大きな違いは、近年のグローバル化のなかで数百年単位ではなく、数ヶ月単位で地球上の全ての人類に広がったということでしょう。今、ポストコロナ時代の社会の有り様についての議論が盛んですが、はるか数万年の期間に及ぶ現生人類と感染症との長い戦いと共存の歴史に思いをはせてみるのも、意味のないことではないかもしれません。

生命に関する考え方も大きく変わりました。1昨年は中国でゲノム編集による双子が誕生し、デザイナーベビーに向けて生命倫理に関する議論が白熱しています。今年に入ってゲノム編集によるサルのコロニーも誕生しました。日本でもiPS細胞やES細胞を用いた医療技術が急速に進展し、人の臓器がブタの体内で作成される時代になりました。生命環境や人間観をめぐるさまざまな倫理的問題が浮上してきています。そこには、単に病気を治すというだけでなく、人間の命の始まりや遺伝的なシナリオに手を加えるという可能性が広く開けているからです。それは、社会の年齢構成や人生計画を大きく左右して、未来社会の動態に影響を与えます。また、医療がビジネスと結びつき、バイオベンチャーとして巨大な富を生み出し、世界の経済を動かす動因にもなりつつあります。私たちは今こそ、さまざまな生命の長大な歴史を振り返りつつ、生物としての人間、文化を持つ社会的な存在としての人間を総合的に見つめなおさなければなりません。

これからの社会は、Society 5.0と呼ばれる超スマート社会です。そこではICT機器が威力を発揮して人々や物をつなぎ、ロボッ

トや AI が多くの仕事を代替することになって、互いの顔が見えなくなるかもしれません。しかし、そういった社会でこそ、人々が触れ合い、生きる力を発揮して世界と向き合うことが大切になると思います。世界は資本集約型や労働力集約型から知識集約型社会に変貌しようとしています。日本も東京一極集中型の経済から地域分散型の経済へと脱皮しようとしています。その動きを作るのは今からの課題と皆さんの力です。

これからの社会は、これまでにはない人間観や自然観が必要です。先端的な科学技術にすべてを依存するのではなく、これまで時代遅れと見られてきた考え方を拾い集めて未来を見つめ直すことも重要になるでしょう。温故知新、ふるきをたずねて新しきを知ることは、ますます必要とされています。現代は情報技術やコミュニケーション技術が急速に発展し、いつでもどこでも、簡単に既存の知識にアクセスできるようになりました。膨大な映像が情報機器を通じて無料で流され、もはや、書物は知識を得る唯一無二の手段ではなくなりました。しかし、社会を先導するイノベーションには科学技術だけでなく、人文学、社会科学的な学知と共に確かな人間観が不可欠であり、それを総合的な学術研究の蓄積から見直さなくてはなりません。

現代の問題は、「将来は現在より良くなるはず」という希望を支える資本主義の原則、すなわち「経済成長は至高の善」という理念が崩れ始めているということでしょう。私が京都大学の学生だった 1970 年代初頭はまだ日本が高度成長時代で、すぐ先に明るい未来が見えているような気がしていました。大阪で万国博覧会が開かれ、科学技術によって次々に新しい可能性が切り開かれようとしていることが実感できました。しかし、やがて公害問題や温暖化などの環境劣化が地球規模で急速に進んでいることが明らかになりました。その後、「持続的な開発」が謳われ、地球の劣化を防ぐための国際協約がいくつもできました。地球の資源は有限であり、人間が発展する道には限界があることが共通理念となったのです。日本の産業界もパリ協定で謳われた SDGs（持続可能な開発目標）を基に企業倫理や戦略を掲げるようになりました。これからの社会には、地球規模で生物多様性や人間社会を包摂的にとらえる思考方法が不可欠になります。

崇徳学園には創造の精神を尊ぶ伝統があります。まだ誰もやったことのない未知の境地を切り開くことこそが、崇徳学園の誇るべきチャレンジ精神です。皆さんのなかにもさまざまな突出する能力を身に着け、すでにそれを発揮して活躍している方が多いだろうと思います。しかし、忘れてはならないのは、自分と考えの違う人の意見をしっかりと聞くことです。しかも複数の人の意見を踏まえ、直面している課題に最終的に自分の判断を下して立ち向かうことが必要です。

しかし、現代社会ではこの調和が崩れ、多様な考えを持つ人々の共存が危うくなっているのも事実です。皆さんもこれからの人生でこの難題に直面する事態に出会うことでしょう。そのとき、崇徳学園の自由な討論の精神を発揮して、果敢に自らの課題に向き合ってほしいと思います。皆さんがこれから示すふるまいや行動は、崇徳学園同窓会の一員として世間の注目を浴び、皆さんの後に続く在校生たちの指針となるでしょう。これから皆さんの進む道はさまざまに分かれていきます。しかし、将来どこかで再び交差することがあるはずです。そのときに、崇徳学園の卒業生として誇れる出会いをしていただけることを私は切に願っております。

現代は国際化の時代といわれます。皆さんの将来活躍する舞台も、日本という国を大きく越えて世界に広がっています。地球社会の調和ある共存のために、解決すべき課題がたくさんあります。自然資源に乏しいわが国は先端的な科学技術で人々の暮らしを豊かにする機器を開発し、次々にそれを世界へと送り出してきました。海外へと進出する日本の企業や、海外で働く日本人は近年急激に増加し、日本の企業や日本で働く外国人の数もうなぎのぼりに増加しています。皆さんがその流れに身を投じる日がやがてやってくると思います。そのためには、日本はもちろんのこと、諸外国の自然や文化の歴史に通じ、相手に応じて自在に話題を展開できる広い教養と、常識を疑いつつ真理を追求する気概を身につけておかねばなりません。理系の学問を修めて技術畑に就職しても、国際的な交渉のなかで多様な文系の知識が必要になるし、文系の職に理系の知識が必要な場合も多々あります。世界や日本の歴史にも通じ、有識者たりうる質の高い知識を持っていなければ、国際的な舞台でリーダーシップを発揮できません。学校の学びだけではなく、海外の文化や自然を自ら体得するフィールドワーク的な企画です。海外の多様な人々との対話を通じて、新しい学びの場で世界に貢献できる独創的な能力を育てていくことが必要だと思っています。

世界は今、資源集約型社会、労働力集約型社会から知識集約型社会へと変貌を遂げようとしています。そこでは情報が大きな価値を持ち、情報通信技術や人工知能（AI）が大きな力を発揮するでしょう。病気の早期診断や新しい薬の開発にすでにこうした技術が応用されています。膨大なデータから AI が病因を見つけ出し、適切な治療法を考案して適用し、やがて医療ロボットが的確で安全な手術を行うようになるでしょう。京都大学の山中伸弥先生の iPS 細胞研究所では、iPS 細胞を利用してさまざまな新薬の開発や治療方法の創出を実現しています。栄養価が高く、安全で収量の多い栽培植物や、成長が早く美味な肉の生産にもこれらの技術が役立っています。自動運転を可能にするドライバースモニタリングシステムやスマートシティセンシング、カメラと AI を用いた商品識別技術、多言語自動翻訳技術、災害情報分析技術など、新しい技術が次々に生み出されています。それは私たちの暮らしを大きく変えるでしょう。2045 年に AI が人間の脳を超えるシンギュラリティ（技術的特異点）の到達を予測する議論さえ行われています。

さて 1 昨年、ノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の本庶佑先生は、がん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるタンパク質「PD - 1」を発見し、画期的ながん免疫療法を開発しました。長年の研究の末に、本庶先生はがん細胞が自身の持つ PD - L1 を PD - 1 と結合させ T 細胞の機能を抑えることで、自身を排除しようとする免疫から逃れていることを明らかにしました。次に、PD - 1 に対する抗体を作製し、がん細胞の PD - 1 との結合を阻害して T 細胞の免疫力を発揮させ、がん細胞を排除する仕組みを開発したのです。その成果として、オプジーボやキイトルーダといった免疫チェックポイント阻害剤が製品化され、現在世界中の



がん患者に使われています。従来のがん細胞を除去したり、破壊したりする手術や、放射線や抗がん剤を使う治療とは全く異なる治療法であり、がん治療の未来に大きな光を投げかけています。本庶先生のノーベル賞受賞は、地道な基礎研究の成果を、常識を覆す治療法と画期的な創薬の開発という応用研究まで上げたことが、人類の救済に役立ったと評価されたのだと思います。山中先生とともにノーベル賞を受賞された研究者が二人も現役で教員として活躍しています。1949 年に湯川秀樹先生が日本初のノーベル物理学賞を受賞してから今年で 70 年目を迎えます。時代は変わり、科学技術は急速に進歩したとはいえ、創造の精神は不変であり、学術研究の先導的地位も変わってはいません。昨年は、柏原正樹先生が、生涯にわたる群を抜く業績を挙げた数学者に贈られるチャーン賞、そして日本が誇る国際賞の京都賞を受賞されました。これらの先生の後に続く若い研究者が続々と出てくることを期待しています。

145 年の歴史を持つ崇徳学園は、新しい校舎も建設が出来、ハード面で新しく女子学生も入れる体制ができ、2020 年 4 月より特別進学コースから受け入れを始め、2021 年度から中学も含め全面的に共学になりました。これからの女性にも多いに期待できることです。又、スポーツも期待できます。

次回の機山館での関東支部総会で盛大に盛り上がりましょう。

## 学園の近況を報告

崇徳学園理事長 **奥田 耕造** (昭和 40 年卒)

崇徳学園同窓会関東支部の皆さまにおかれましては、コロナ禍で不便な生活を送られ、同窓会活動についても、制限が厳しい中での活動自粛を余儀なくされていることと思います。ワクチン接種が始まりましたが、新たに感染力が強い変異ウィルスが増加する等、予断を許さない状況が続いております。

しかし、明けない夜はありません。皆さんと一緒にコロナ禍を乗り越えて、来年こそはお会いできることを、心より願っております。

学園の近況を報告します。

学園は中学校、高等学校全コースで共学が開始され多くの生徒が入学しました。近隣の小学生、中学生、その保護者に評価を頂いたものと考え、人気の高まりを感じます。

共学 2 年目になる校内は、色々な場面で、日常の変化、共学化の定着が感じられます。男女が机を並べて学びあい、クラブ活動においても、体育系クラブで女子部員がいきいきと活動する姿や、新聞部・放送部など文科系クラブでも女子部員が活躍する姿を目にします。

帰広の際は是非崇徳学園に足を運んでください。

これからも、学力、スポーツ、文化あらゆる面で、生徒一人一人が目標にチャレンジし、更に輝くことができる学校にして行きたいと思っています。

しかし、まだまだ崇徳学園は、あらゆる分野で改革・改善が求められています。今後も建学の精神を継承する中で、皆様のご理解、ご支援を頂きながら、崇徳学園の更なる発展に尽力して参りたいと思っています。

今後とも、宜しくお願い申し上げます。

## コロナに負けない!! 崇徳出身者の絆を深めよう!!

崇徳学園同窓会会長 **松田 宜久** (昭和 61 年卒)

母校同窓会関東支部の皆様、平素は同窓会活動に何かとご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。コロナ禍の中、皆様お元気にお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

昨年はコロナ禍により、学校現場は大変な状況となりました。突然の休校、手探りのリモート授業、インターハイ予選を始め多くの大会、行事の中止を余儀なくされました。

昨年・今年と崇徳学園では 3 年生と保護者の出席に限定して卒業式が行われ、卒業生全員を新たな同窓会会員として迎えることができました。若い会員の皆様が伝統ある母校の発展を、先輩会員とともに支えて下さることを大いに期待しています。

今年に入ってから現時点、ワクチン接種が始まり、出されていた緊急事態宣言も解除されましたが、未だに終息には至らず、様々な制約を強いられる毎日が続いています。

コロナ感染症の拡大の中、役員会は同窓会の活動を止めてはならないと試行錯誤を重ね、感染防止対策を十分にとって職員と共にアイデアを出し合いながら前向きに取り組んで行きたいと思っています。

この度 16 年ぶりに令和 3 年版名簿を多数の方のご尽力により刊行致しました。今回作成したこの会員名簿発刊を契機に、同級生

との連絡や会員相互情報交換の手段として、さらには母校崇徳学園卒業生の皆さんの絆を深める一助になれば幸いです。

今年度は男女共学 2 年目、中学校は 37 名、高校では 726 名の新入生を迎える事となりました。今後の後輩たちの活躍に支援していきたいと存じます。

どうぞ皆様コロナに負けないように健康にご留意していただき、また会える日をともに祈り楽しみにしております。

関東支部の皆様の今後のご多幸を祈念しご挨拶とさせていただきます。

## Sotoku Pride をもって、未来を生き抜く

崇徳中学校・高等学校 校長 絹谷 徹（昭和 53 年卒）

4 月から崇徳中学・高等学校第 13 代校長として赴任いたしました絹谷 徹と申します。昭和 53 年に卒業、44 年ぶりに母校に戻ってまいりました。校歌「二葉山万古に繁く・・・」や「三帰依」等を生徒たちや先生方と一緒に歌うことができる喜びとともに、146 年の長きにわたり広島県の進学を牽引し、国内外に多くの有為な人材を輩出してきた伝統ある崇徳中学・高等学校に勤務することの責任を感じているところでもあります。

さて、同窓生の皆さま、国内外とも大変困難な状況が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。このたびの新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さま、日夜献身されている皆さま方に、心よりお見舞い申し上げます。また、崇徳学園同窓会関東支部の皆さまをはじめ、全国でご活躍の同窓の皆様からご支援を賜っておりますこと、日ごろより、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今年度、中学校 37 名（女子 18 名）、高校 726 名（女子 278 名）の新入生を迎え、在籍生徒数 1,690 名（高校 1 年生 726 名、高校 2 年生 454 名、高校 3 年生 347 名、中学 1 年生 37 名、中学 2 年生 57 名、中学 3 年生 69 名）でスタートしました。日本の教育界を取り巻く環境は、私が高校生の頃とは全く違った状況で、今後もこれまで以上に変化の波が押し寄せてくることが予想されます。教育のあり方を問い直されることも多々あるなかで、校是である「崇徳興仁 務修礼讓」という本校の建学の精神は、私たちを鼓舞してくれます。

本校の本年度の教育目的を「Sotoku Pride をもって、未来を生き抜くことができる生徒を育成する」としました。それは、自分の考えで、何事にも主体的に実行し、他者をリスペクトできるしなやかな心を持つこと。さらに過去に学び、現在を知り、未来を考える手法を学ぶことと定義しました。目的の定義を明確化したうえで、必要な能力を教育目標に設定しております。

教育目標の『崇徳学園 Graduation policy（崇徳 GP）』は、崇徳学園での学びをとおして、持続可能な未来を創造する 8 つの身につけて欲しい力を育みます。（崇徳 GP: 思考力・自己肯定力・発信力・行動力・コミュニケーション力・協働力・分析力・創造力）8 つの未来創造力を実践し、社会貢献・国際貢献できる人間力を育めるよう生徒、教職員が一体となって取り組んでまいりたいと考えています。まさに知育・徳育・体育の充実により、人格を磨き、グローバル社会の中で、高い知性と広い視野を持った、将来の日本や世界をリードする人材の育成を目指すことです。

昨年度より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、多くの制約を受けました。生徒にとってはかけがえのない貴重な学校生活ですが、残念ながら多くのことが犠牲となったり失われたりすることになりました。

中学校 2 年生の京都研修では、本願寺参拝と書院拝観、龍谷ミュージアム見学、そして、宗門校である龍谷大学の協力を得て大学生とフィールドワークの予定。また、高校 2 年生の修学旅行海外コースでは、ハワイを訪れ、ハワイ別院参拝、宗門校である PBA との交流、ハワイ大学での研修などを取り入れ、ハワイならではの自然体験も取り入れて実施する予定。どちらの行事も、これからさらなる内容の充実を期待していましたが、残念ながら中止となりました。

以下、昨年の実績を報告します。

### ●進路実績 卒業生 342 名（進学 308 名 就職 4 名 未決定者 30 名）

2020 年度の進路状況は、進路決定率 91% で、前年度より 1 ポイント UP しました。

国公立大学 41 名（名古屋大学 1 名、九州大学 2 名、広島大学 6 名、山口大学 5 名、筑波大学 1 名 等）

私立大学 524 名（慶応義塾大学 1 名、早稲田大学 2 名、GMARCH23 名、関関同立 72 名、龍谷大学 29 名 等）

地元大学（広島修道大学 53 名、広島工業大学 45 名、広島経済大学 34 名、広島国際大学 32 名 等）

### ●クラブ活動（全国大会出場及び入賞）実績

昨年度、インターハイ、国民体育大会、春の選抜全国大会の出場が決まっていたクラブがありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止から大会が中止となった競技もありました。しかし、その後、代替大会が一部開催され、それぞれのクラブが活躍しております。コロナ禍での生徒の努力の背景に、日々支えてくださる家族、指導者、仲間など、その方たちへの感謝の気持ちがあり、それを忘れることなく活動していたことを嬉しく感じております。



## 運動部

## ◎柔道部

第 43 回全国高等学校柔道選手権大会

無差別：藤本 偉央 優勝

66 kg級：都市 弦介 73 kg級：田中 虎之介 出場

## ◎バレーボール部

第 73 回全日本バレーボール高等学校選手権大会 出場

## ◎アメリカンフットボール部

第 51 回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会 出場

## ◎体操競技部

2020 全日本高等学校体操競技選抜鯖江大会 奥 朝陽 出場

第 37 回全国高等学校体操競技選抜大会 坂居 龍幸 出場

## ◎ボクシング部

第 32 回全国高等学校ボクシング選抜大会 出場

平井 建 (LF 級)、山下 大翔 (W 級)、清水 大生 (セカンド)、宮崎 栞 (R 級)、原田 開地 (M 級)

## ◎陸上競技部

全国高等学校陸上競技大会 2020・リレー競技

100 m 7 位入賞：岡田 寛人

4 × 100mR 出場：岡田 寛人、後藤 達樹、齋藤 聖、植田 光紀、藤井 雄大、佐野 理生

日本室内陸上競技大阪大会

男子 U20 60m 7 秒 06 B 決勝 7 位：岡田 寛人

## ◎自転車競技部

2020 JCSPA ジュニアサイクルスポーツ大会

個人 ケイリン：田村 一暉 第 8 位

団体 4 km チーム・パシュート：奥村 彩人、塩出 皓成、檜井 誉樹、田村 一暉 第 8 位

第 44 回全国高等学校選抜自転車競技大会

個人 ケイリン：田村 一暉 第 7 位

## ◎水泳部

高等学校・中学校 47 都道府県通信水泳競技大会

下田 彩葉 出場

## 文化部

## ◎新聞部

第 44 回全国高等学校総合文化祭 新聞部門 優秀賞 (第 6 位相当)

『令和 3 年度 全国高等学校総合体育大会 北信越総体 2021』出場クラブ (6 月 25 日現在)

◎柔 道 部 長野県長野市 8/8 ～ 12 長野市真島総合スポーツアリーナ

◎バレーボール部 石川県金沢市 8/2 ～ 6 いしかわ総合スポーツセンター 他

◎体操競技部 新潟県上越市 8/9 ～ 11 リージョンプラザ上越

◎ボクシング部 福井県福井市 8/7 ～ 13 福井県営体育館

◎自転車競技部 福井県福井市 8/19 ～ 23 〈トラックレース〉福井競輪場 (周長 400m)

福井県大野市 8/23 〈ロードレース〉大野市特設ロードレース・コース

◎陸 上 部 福井県福井市 7/28 ～ 8/1 9.98 スタジアム (福井県営陸上競技場)

『第 45 回全国高等学校総合文化祭』 第 25 回全国高等学校新聞年間紙面審査賞

◎新 聞 部 和歌山県和歌山市 8/5・6 開智中学・高等学校 (開智ホール)

このたびの、東京オリンピック・パラリンピックに本校卒業生が選手として参加されます。

『TOKYO 2020 オリンピック・パラリンピック』

射撃競技 佐々木大輔選手 (平成 3 年度卒)

最後になりますが、本校の建学の精神はどんなに環境が変わろうとも普遍的なものであり、判断に迷った時の道標となるものと信じています。この建学の精神を礎として、私立学校としての存在意義を高め、生徒、保護者や地域の方々のご期待に沿えるよう教職員一丸となって学校教育を進めてまいります。同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を心から願っております。



## 『ありがとう 崇徳』

関東支部理事 野球部 OB 畠 繁明 (昭和 50 年卒)

先輩達のお話を少しだけしましょう。

私の二学年上には黒紙義弘さん(亜大～東芝)が投手として大活躍されました。大学時代のライバルは、佐藤義則さん(日大～阪急)です。社会人では、東芝初優勝に貢献され橋戸賞を受賞されました。この大会の決勝戦で投げ合った日本銅管の投手は木田勇さん(日本ハム)です。黒紙さんは、他の大会で久慈賞を受賞されています。まさにミスター社会人です！

一学年上には、藤原仁さん(駒大～日本楽器～阪神) 広商佃・山陽村田・崇徳藤原ビックスリーと言われておりました。

福井文彦さんは、カーブドラフト 2 位に指名されましたが中央大～東芝府中にと山口弘和さん(駒大～NTT 東京)、森本正治さん(料理の鉄人) キャプテンでした。

中島敏和さん(駒大) マネージャーさんでした。皆さん、とても優しい先輩でした。

私も 2 年生で 9 番ライトでした。このチームで甲子園出場という思いがありましたが残念ながら決勝戦で広商に 4-2 で敗れました。伝統の力が勝敗をわけました。

試合後、学校の食堂で反省会をやりました。吉田祥三監督が肩を震わせ嗚咽なさっていたことを覚えています。

もちろん、全員大泣きですよ。悔しさもありましたがやりきった感があり、すがすがしい気持ちになれましたね。

ゴルフの倉本昌弘さんもこの年代です。私の同期、聖川良司さん(亜大～NTT 中国)、市会議員の八條範彦さんも元野球部、落語家 柳家福治さんはバスケットボール部。余談ですが、西本 聖(松山商～巨人) 同期です。2 回対戦しました。ストレートは速い、カーブは見えない、それ以上にバッティングがすごかった。一学年下には、高山雅彦さん(亜大～NTT 中国)、前同窓会会長 山本千曲さん、バレー部 藤井康司さん、二学年下には選抜優勝チームの面々がいました。

さて、本題です。私を入学させて頂き、3 年間野球をさせてもらい、卒業証書も頂き、大学まで行かせてもらいました。私の不甲斐なさで大学を辞めましたが監督までさせて頂きました。そしてまさかまさかの甲子園出場。

夢のような野球人生です。全て崇徳高校のおかげです。感謝しております。

縁を大切に、

人を大切に、

大声で叫びたい。

『ありがとう 崇徳高校！』



## 茶道部近況報告

崇徳高校茶道部顧問 房尾 昭江

茶道部は現在、中学生が 5 名、高校 1 年生が 8 名、2 年生が 6 名、3 年生が 5 名の計 24 名で活動しています。昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の流行により、色々なイベントが中止となっています。

昨年度は、茶摘み茶会や敬老茶会、私学フェスタでのイベントが中止になったため、普段の点前練習に加えて、茶杓づくりやお茶碗づくりをしました。

今年度は部員の数が大幅に増えたため、密を避けるために前後半に時間を分けて練習に励んでいます。上田宗箇流は男子と女子で手前のやり方が違うので、講師の先生に点前の基本動作の動画をいただき生徒たちはそれを iPad で観ながら各自自主練習をするということもしています。

広い茶室を作ることが難しいとのことなので、今ある設備で工夫しながら生徒たちは日々練習に励んでいます。コロナウイルスの流行が収まればイベント等も復活して生徒の活躍の機会が増えるので、常に練習を怠らず精進していきます。

## 自転車競技部近況報告

崇徳高校自転車競技部顧問 三崎 浩志

自転車競技部は 2021 年現在、3 年生 10 名、2 年生 3 名、1 年生 3 名の計 16 名で活動しています。普段は主にロードバイクで練習しており、広島競輪場が使用できるときにトラック練習をします。火曜日、水曜日・木曜日は、それぞれ外部コーチにレッスンをいただいています。

近年は、毎年インターハイや全国選抜大会に出場をしており、入賞者も出るなど全国で活躍する生徒も出てきています。また個人だけではなく、今年度は中国大会でトラック、ロードともに総合優勝をするなど、全体的な競技力も向上してきています。今後も自転車競技を通じて生徒達が技術だけでなく心も成長できるよう、指導していきたいと思っています。